



TITLE:

ピケリング教授よりの手紙

AUTHOR(S):

中村, 要

---

CITATION:

中村, 要. ピケリング教授よりの手紙. 天界 1923, 3(27): 92-92

ISSUE DATE:

1923-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159837>

RIGHT:

ある様である。少くとも中學二年位の智力はいると思ふ。改版の時にでもやばらけて頂き度いと思ふ。終に御約束の「星座めぐり」の出しの早からん事を待つ次第である。(編輯生)

## ビケリング教授よりの手紙

中村 要

九月末小生の數箇のスケッチをジャマイカのビロリナ教授に送つたが其の返信が最近に到着した。其の内に二三遊星觀測に興味ある事があつたので書く事にする。スケッチは甚だ良く又目は甚だよくなくてはならぬが餘り多く見過ぎて居る。殊に無い所に運河を見て居る場合がある。此れは初心者に甚だ多い誤である。よほど確だと思つた外運河を書いてはならぬ。本當に見えて居る二つの運河を書かない方が無い運河を一本書くよりもよい。又小生のスケッチは中心にかたより過ぎて居る。南海が極から離れすぎて居る。東洋に於ける觀測は非常に重要である。他に殆んど觀測者は無い。シーニンガは標準のスケールを使つた方がよい。

編輯係 海老様

九月なつかしい京都を去つてから長い御無沙汰を容るさせ給へ。實は東都に来てから夜の觀測と、晝の計算とに魂が集中されて、敢えて禿筆を振ふの心に餘裕がなかつたからです。併し年も立ちかはり、此處に元氣を再び

振ひおこして、「恒星のスペクトルの分類法」なる拙稿を送るに至りました。聊か申譯も立つたかに思はれます。思へば京都の生活も一生の思ひ出の種となります。夜半すぎてから觀測を終り、寒ひ併かも晴れて星の降るやうな空を打ち眺めつゝ、吉田町から寓居の上賀茂さして、加茂川の堤防に自轉車を走らせた記憶は忘れたくないものです。東には比叡、西には愛宕の山々が暗く聳え、寶玉のやうな星が燦然と輝く天が下を獨り走る。思ひ出して悲愴の感に打たれます。なつかしい一生涯あそこには住めないでせうか。何一つ取り柄もなかつた賀茂の部落其れが又なく忘れがたい。今は東都にさすらひ同じ商賣はして居ますが又別な氣分を味つておます。小生は初めはスペクトルや、新星や、火星の研究に他事を忘れた時代もありましたが、今は月について天文學的に且つ文學的に研究することに小生の興味は凝りかたまつて居ります。春の夜には霞の面紗につゝまれて仄かに匂ひ、秋の夜には艶拭きされた辭かに冴える、あの月の光りがさうして忘れられませう。「月夜に憶れて」さ申す本を必ず書いて江湖に問ひたいと決心して居ります。

古川 生

## 岡山支部一月通信

一、十三日午後二時から、第二岡山中學校で

通俗講演會開催午後四時三十分閉會、引續き東山、吐月に於て晚餐會を催した。

1 天文と航海 元船長 岸本洗太郎氏

2 改正せられたる大正十二年曆について 支部幹事 水野 千里氏

二、二十日午後一時三十分から、第六高等學校で、岡山物理學會主催の連續講演會第一回が催され、左の講演があつた。第二回は二月三日、第三回は十七日、第四回は三月三日で終了の豫定である。

1 相對性理論 六高教授 雜賀修二郎氏

2 天體の形狀について 六高教授 宮原 節氏

三、水野支部幹事著「太陽の親類めぐり」は愈本月發行せられ、その姉妹篇「星座めぐり」は脱稿、目下上田助教檢閲中であるから、遠からず出版せられるであらう。そして星座は大正十二年曆にあるものが順次に記されてゐるのだ。

## 山口高等學校支部新設

山口高等學校化學教室の野垣寛之氏の御盡力に由り同校に本會の支部を新設し、同氏を支部幹事に御願した。

## 新城理學博士の御寄附

同博士は本會の事情を御同情下され昨年十二月及本年二月の兩回に金拾圓宛を寄附された。茲に記して感謝の意を表す。會計係